

# 日米協力

少し古い話ですが。。



## 2017年10月17日

### 民生用原子力分野における研究開発及び産業協力に関する 日本国経済産業省とアメリカ合衆国エネルギー省の意図表明

(参考資料①)

安全性の確保を大前提に、  
経済的で、信頼性が高く、クリーンなベースロード電源  
と考えられている民生用原子力の分野において、  
世界的なリーダーシップを発揮する日本国と  
アメリカ合衆国の役割を促進することを目指し

両当事者は、下記の分野における  
協力の特別な重要性を認識するとともに、  
これらを更に強化することを意図する。

#### 1. 民生用原子力技術の研究開発



## 2017年11月6日



### 日米戦略エネルギーパートナーシップ

(参考資料②)

日米両国の首脳は、  
日米間のエネルギー協力を強化するため、  
「日米戦略エネルギーパートナーシップ(JUSEP)」を、  
日米経済対話の枠組みの中で進めていくことで一致した。

#### 2017年から2018年にかけての JUSEP活動計画優先事項

(1) より安全で核拡散抵抗性の高い  
先進的な原子力技術の促進



# 2018年11月13日

## 原子力分野における研究開発及び産業協力に関する 日本国経済産業省及び文部科学省と アメリカ合衆国商務省及びエネルギー省の協力覚書

(参考資料③)

現在行われている日米経済対話及び  
2017年10月17日に署名された  
民生用原子力分野における研究開発及び産業協力に関する  
日本国経済産業省とアメリカ合衆国エネルギー省の意図表明  
に従い、  
日本国とアメリカ合衆国の間で 2017年11月6日に  
公表された  
日米戦略エネルギーパートナーシップ  
を前進させることを目指し、  
安全性の確保を大前提に、  
経済的で、信頼性が高く、クリーンなベースロード電源  
としての原子力の必要性を確認し、  
両国にとり経済成長とエネルギー安全保障を促進するため  
原子力分野における商業的パートナーシップを  
促進することを希望

両当事者は、  
それぞれの国の国内法令及び国際的な約束に従って、  
次のとおり協力することを意図する。

- ✓ 革新炉を含む原子力研究開発協力
- ✓ 廃炉及びバックエンド燃料サイクル管理の協力
- ✓ 安全性向上のための産業協力
- ✓ 世界の原子力利用への貢献
- ✓ 継続した対話のための枠組み

### 最後に一言

2018年エネルギー基本計画2ページに「東京電力福島第一原子力発電所事故を経験した我が国としては、(中略)原子力については安全を最優先し、再生可能エネルギーの拡大を図る中で、可能な限り原発依存度を低減する。」と書いてあります。この記述と、今回紹介している「原子力の必要性を確認」した上での日米協力の促進って、どう繋がるのか？全く分かりません。

なんでこんな筋の通らないことが、全く無批判にまかり通っているのか？

「筋が通らなくても、やったもん勝ち」って、最近よく見るパターンですが、事実としては筋が通っていないので、問題を先送りしてるだけです。

将来破綻したとき、その尻拭いをするのは将来の人たち。

私たちが将来に残している負の遺産は、放射性廃棄物だけではないようです。。。

参考資料 (HP閲覧日: 2020年1月13日)

①経産省HP ニュースリリース 2017/10/19 「LNG産消会議2017」を開催しました  
<https://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171019004/20171019004.html>

②経産省HP ニュースリリース 2017/11/7 「米国との間でエネルギー及びインフラ協力を進めて行くことを確認しました」  
<https://www.meti.go.jp/press/2017/11/20171107002/20171107002.html>

③経産省HP ニュースリリース 2018/11/13 「米国との間で「原子力分野における研究開発及び産業協力に関する協力覚書」を発表しました」  
<https://www.meti.go.jp/press/2018/11/20181113003/20181113003.html>